

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和6年1月21日（土） 14:00～16:30
場 所	毛呂山町立泉野小学校 体育館
出席者	11名（内1名は新聞記者）
毛呂山町	高沢教育長 土屋学校教育課長 石田教育総務課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 新井学校教育課指導主事 市川教育総務課庶務係長 山口教育総務課管理係主事
発言者	内 容
石田課長	<p>それでは、皆様こんにちは。お時間になりましたので開始をさせていただきますと思います。本日はお足元の悪い中、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。この度教育委員会では、子どもたちにより良い学校のあり方について再検討をし、学校教育における課題、今後の児童生徒数の推移、必要とされる教室数、既存校舎の維持更新などの教育的課題を解決するために、最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）を策定いたしました。本日の説明会は、この編成計画（案）に関する説明会となっておりますので、よろしく願いいたします。本日の説明会の時間は、約2時間前後とさせていただくことをご了承いただきたいと存じます。撮影及び録音についてはご遠慮いただきますようお願いいたします。なお、教育委員会は議事録作成のため、録音をさせていただきます。こちらの議事録の方をまたホームページなどで公開したいというふうに考えておりますのでご理解をいただきたいと存じます。</p> <p>それでは、毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会を開催したいと存じます。最初に、教育長よりご挨拶をいただきます。</p>
高沢教育長	<p>改めまして皆さん、こんにちは。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。教育長の高沢でございます。開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。まず、本年1月1日に発生しました能登半島地震で尊い命を犠牲となった方々に心よりお悔やみ申し上げます。また、地震や津波、あるいは火災等でですね、被災に遭われた皆様も心からお見舞い申し上げますと共に1日も早く元の生活に戻ることを祈念させていただきます。私たちもできる限りの、支援はさせていただきたいと思っておりますし、当毛呂山町の方でも先週1週間、職員の方を県の要請により、被災地の方に派遣させていただきました。また義援金等も、色々な場所で募りながら支援をさせていただいております。皆様方もそれぞれの立場でご支援を是非お願いしたいと思います。</p>

本日は、休日の午後ということにも関わらず、毛呂山町立小中学校編成計画（案）の説明会に、ご出席いただきありがとうございます。日頃より、地域の皆様には学校教育に様々な場面でご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。毛呂山町はご案内の通りコミュニティスクールを実施しておりますので、学校教育の中に様々な、教育資源を取り入れております。今後とも是非ご参加の方、よろしく願いいたします。

小中学校なんですけども、この1月9日に第3学期が始まりました。3学期は卒業、進級等に絡む時期ですので1年で、最後の締めくくりの学期になります。休み中も事故無く過ごせましたし、また学校生活が始まって元気に学校生活を送っています。特に中学校3年生はいよいよ、進路を自分の進むべき道を決める時期になりました。明日から県内の私立高校の入学試験が始まります。最初の大きな関門ですけども今まで、蓄えた力をフルに発揮してもらってそれぞれが叶うような、進路が決まると良いと思いますし、支援を学校を挙げて行っております。

さて、教育委員会では、少子高齢化、地域のコミュニティの希薄化、また少子高齢化等によります、人口減少等によりまして、子どもたちにより良い教育環境を提供するにはどのような教育施設が望ましいのかということで、平成25年度より2つの委員会等を設けて、その内容等を検討してまいりました。その結果、平成30年に教育委員会の考え方を、未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～としまして基本方針を定めてホームページ等で紹介させていただきました。このプロジェクトに沿って現在も小中一貫教育を、毛呂山中学校区の小中3校、川角中学校区の小中3校で9年間を見通した連続性を持った学習内容を展開させていただいております。またその中に先ほど申した通り、コミュニティスクールを導入いたしまして地域の方々の学習面の、様々な支援をいただいております。本当にありがとうございます。併せて幼保小中連絡協議会としまして、幼稚園、保育園等から上がってくる児童の連携にも全町的に努めております。このように教育政策を、様々なものを展開していく中で、実はご案内の通りコロナの影響で、分散授業ですとか、あるいはICTを使った授業ですとか、また1学級の35人の導入ですとか、ということで学校教育の環境が様々な変化してまいりました。それに対応するために、昨年度は毛呂山町小中学校のあり方検討委員会というものを設置しまして、委員の皆様から様々なご意見をいただいた次第です。環境は人を作ると言われております。その環境とは人であったり、あるいは物的なものであったり、様々なものが子どもたちの学習環境に影響を与えます。特に先生をはじめ、人的な保障、環境、地域の皆様や保護者の皆様、そのような人的な環境であったり、あるいは施設・設備、校舎であったりグラウンドであったり、あるいは教材や教具であったり、学ぶ教育課程の内容であったり、様々な子ど

	<p>もたちにとって重要な構成要素がございます。このようなものを踏まえながらこれからの子どもたち、そして今学校で学んでいる児童生徒にどのような教育環境を提供するのが望ましいかということで教育委員会も考えまして、本日学校編成計画（案）を示させていただいている次第でございます。今日、スライド等を使いながら、またお手元の資料を説明させていただきながら編成案については、こちらの方から説明させていただきます。色々なご意見も、いただきながら進めてまいりたいと思いますが、まず、教育委員会の考え方をしっかりと提示させていただきたいと思います。その説明になりますので、どうぞ皆さんも、またご意見等ありましたらこの後頂戴したいと思います。9年間を見通した教育活動で子どもたち、将来毛呂山を担う子どもたち、世界に羽ばたくそういう子どもたちを育成してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
石田課長	<p>ありがとうございました。 本日の説明会に際し、職員等の紹介をさせていただきます。</p>
	<p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
石田課長	<p>以上、よろしくお願いいたします。 それでは、教育総務課道地副課長より説明をいたします。</p>
道地副課長	<p>教育総務課の道地と申します。本日はよろしくお願いいたします。説明会に入る前にお配りした資料の確認をさせていただければと思います。次第、資料、あと感想記入用紙になります。お手元にごございますでしょうか。感想記入用紙におきましては、申し訳ございませんが何かございましたらご記入いただき、お帰りの時に受付のカゴの方に入れていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。今回の説明に関しましては、この資料を元に進めさせていただきますが、大変申し訳ございません、この資料白黒でございますので画面を見ていただいた方がわかりやすい部分がございますので、画面を見ていただければと思います。それでは私の方から小中学校の編成計画（案）について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。</p> <p>初めに、実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のよりよい教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p>

平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されています。手引きの中では「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされています。学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられます。そういった形で、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございますが、9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思えます。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料でございますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加していきます。いわゆる少子高齢化です。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えているのがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転しているのがわかると思えます。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。

ます。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況でございます。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人という形になります。こちらは、児童のいる世帯の状況となっております。右側の白い部分が児童のいない世帯になってございますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っているのがわかると思います。こちらは家族の中で、対人関係を形成する組み合わせを示したものでございます。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなっています。そのため、学校において多様な人間関係を体験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移となっております。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、今年令和5年度では1,801人となっております。ピーク時に比べると約34%まで減少しているということとなっております。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計となります。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推測されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級となっております。令和11年度以降なんですけれども、光山小学校、泉野小学校の学年で単学級となる見込みとなっております。続きまして、教員数についてでございますが、小学校で校長・教頭を両方含めて事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校はすでに1人となっております。泉野小学校はこちら令和9年度となっておりますが、令和7年度からですね、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度でございます。町の小中学校は6校ございますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況でございます。こちらは、小中学校の改修の状況になります。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後ですね、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3

クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、ここの通学40分以内というのは通学距離にするとおおよそ3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになってございますので、後ほど資料の方で確認させていただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いがございます。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることによって更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それではですね、令和3年度に小中一貫教育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思っております。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の講座だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っている

ことを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っています。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間で分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のよりよい教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等でございます。まず、川角中学校区でございます。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫

校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級でございます。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区でございます。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地でございます。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級でございます。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定となっております。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージでございます。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横側のあたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果でございます。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してのスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になるんですけども、お示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果でございます。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中

学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、イメージとなっております。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生が一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているので、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございます。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備でございますが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山学校保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところでございますが、お示しいたしております。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えております。毛呂山中学校

	<p>校舎のイメージでございます。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。</p> <p>今後のスケジュールでございます。12月はすでに保護者説明会を実施させていただき1月もすでに保護者説明会をさせていただいております。今後1月21日、28日と説明会を実施しご理解いただけるよう努めてまいります。1月から2月にかけて現在パブリックコメントを実施しておりますが、パブリックコメント後3月に計画の策定と考えています。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。私からの説明は以上になります。ありがとうございました。</p>
石田課長	<p>それでは、質疑応答の時間へ移らせていただきたいと存じます。申し訳ございませんが、事務局からの質問に対するお答えは、座ったままの形でお答えすることをお許しいただきたいと思っております。手を挙げていただけましたら指名をいたしますので、お名前を名乗っていただいておりますようお願いいたします。それでは、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。お願いいたします。</p>
A	<p>A といいます。小学校で今ちょっと朝のお話会とかそんなので参加させていただいております。すごく大事なところだと思うんですけども、その際に説明会っていうのをされても実はね、聞いててもあまりピンと来ないんですよ。良いことばかりで絶対に悪いことは無いっていう考え方ですよ。で、その根底にまず、立派な子どもたちと立派な先生たち。それしかいないですよ。で、その中でああやればいい、こうやればいい、学習意欲が高まる、世界に羽ばたく毛呂山の子ども。そういうふうに言われても抽象的なんですよね。それで例えば今回みたいに説明会っていうのを小学校と中学校の子のご父兄にされたということですけど、説明会に来てよく分かんないけどとにかく良いことしか言わない。すごいいっぱい話し合いをなさったと思うんですけど、その中でこうなることにリスクっていうのを当然考えられたと思うんですけど、まずどんなリスクがあってそれをどう解決なさったかっていうのと、それから保護者の方にアンケートを取ったんですよ。取ったアンケートについてどれくらいの方が賛成なさっ</p>

<p>石田課長</p>	<p>て、どれくらいの方が意見を述べられたかっていうこともお聞きしたいです。</p> <p>ご質問ありがとうございます。まず、保護者の方に対するアンケートという部分ですけれども、こちらアンケートはですね、学校教育環境等検討委員会、こちらの時にアンケートは取らせていただいております。そして、そのアンケートを基に検討委員会の方でもご意見をいただき、小中一貫教育プロジェクトの方での方針の方を出させていただきました。アンケートの中にはですね、やはり色々なご意見がありまして、保護者の方でしたので単学級に対するご心配というところも多くありました。また、学校が統廃合することに対するご不安というのもございました。そういうところをまとめたプロジェクト基本方針という形で、一旦町の方もですね、令和8年、令和10年ということで学校編成の目標とするというところで方針の方は出させていただきましたのですけれども、そういった中でコロナ禍であったり、35人学級であったり色々状況が変わってしまって、また計画の方を見直すというところは広報などを使ってご周知させていただいたところですよ。アンケートをそれで1回取った中で、その方針を基に住民広聴会、住民の方のご意見をいただくという場の方も設けております。そこで色々なご意見もいただきました。ご意見の内容というのは、賛成ですという形ではないにしても、反対の方々の中にも、なぜ反対をするのかという色々考えるところがあったと思います。例えば通学距離が長くなることに対するご心配であったり、小学生と中学生が同じ校舎の中で生活することに対するご心配であったり、そのようなご意見もいただきました。その後ですね、あり方検討委員会というところで状況が変わった中で、公募委員さんも入れて話し合いをしていただいた中で同じように通学路の関係であるとか、同じ校舎の中で小学生と中学生が生活することに対する不安などもございまして、そういったご意見の方をしっかりと受け止めて、通学路に関しましてはスクールバスの整備、そして同じ校舎の方で生活することに対しましては小学低中学年と中学生との生活する場の整備などをして今回の計画案の方は策定させていただいております。</p>
<p>A</p>	<p>リスクが出た部分というのはどういうふうに解決したんですか。なんか色々ご意見が出たと、それを検討してやられたとおっしゃるんですけど、意見された方はそれで納得されたということですか。その後こう変えたけどっていう、大事なことだと思うので。</p>

石田課長	ありがとうございます。ご意見に対して、ご意見の内容を反映させての今回の策定案となっております。そしてその策定案に対して、今現在説明の方をさせていただいておるという状況でございます。
A	そういう心配を全部解決されたということですね。色々な心配事は全部解決されたって。今発表されたのは全部、それだけっていう、それ以外の問題点みたいのは当然出たと思うんだけど、それに対する通学路とか以外のこともあると思うんですけど、その出た問題については全部解決された。
石田課長	ご意見としていただいていたものを解決をさせていただいての計画というふうに捉えております。
A	本当に。本当ですか。教育に携わる先生方の何パーセントくらいがこの案に賛成なさっているんですか。また、教育委員会で話し合われて一生懸命やってらした方のどれだけの方が自分のお子さんも小学校、中学校に通われていると思いますけど、そこでどれくらいの方が賛成されたんですかね。前は2期制にするとか、文部科学省からちょっと話があったらすぐに2期制に変わりましたよね。で、しばらくしたらやめましたよね。でも今回はやめられませんよね、やっちゃったら。それだけの自信があってやっている。で、話を聞いてると、とにかく皆子どもたちは問題ない、何の問題も無く中学生が小学生をリードして何とかかんとかっていう話ばかりなんですよね。そういう問題今までいっぱいあったと思うんですよ。私は中学で講師を短い間やらせていただいていたことがあったんですけど、とてもいっぱい問題はありますよ。そういうことを全く含んでいない感じがしちゃって、全部 OK みたいな。そういう子どもと先生達の施策の中でこううまくいくんだろうかよくわからない
高沢教育長	はい、ありがとうございます。じゃあ私の方でお答えさせていただきます。まず先生方への説明なんですけども、昨年12月に、6校を担当の方でまわってこのような説明をさせていただきました。質疑応答もあつたんですけども、最後に皆さんと同じようにご意見等を書かせていただきました。多くの先生方が、小中一貫教育については好意的な意見です。是非小中学生をですね、しっかり学習内容を身に付けて、そして中学生は中学生らしく、そして小学生をリードするような、そういう先輩であってほしいということと、それから小学生の方には、小学校の先生方は、専科教科といって算数や理科、体育、それから外国語の授業が入ります。それを中学校の先生方が専科の先生がいますので、授業の補助をしながら小学校でチームティーチングをしていくと。そういう内容も踏まえて、ちょっと不安

	<p>だった教科指導についても中学校の先生方と協力してやっていけるということで、もう既に一部始めているところはあるんですけども、そういうことについても今後の見通しが立ったので是非、小中一貫教育を進めていきたい、さらに小中一貫校の方で学習を進めていきたいという、大方そういう意見が多かったように私の方も読ませていただいて感じました。あとは小中学校の児童生徒の交流なんですけども、年に数回、小学校6年生が中学校の校舎の方で、中学校生活に慣れるという意味で、学習を行っています。映像にもあったように中学生がうまくリードをしています。で、中学生が小学生をリードするだけじゃなくて、戻った6年生が下級生に対して思いやりの心を持ったそういう活動をしているということも見受けられます。心配なところは、いくつかあるかもしれませんが、私たちはそういうところを1つ1つ丁寧にクリアして行って、望ましい方向に、学校環境が進むということを前提に今の説明とさせていただきます。そういう学校を、作ってきたいということで今日ご説明させていただきます。よろしくお願いたします。</p>
石田課長	はい、お願いたします。
B	<p>すみません、Bという者なんですけども、お願いします。先ほどの説明を聞いてたんですけども、今の方と同じように良いこと尽くめの回答しかないというか、なぜ一貫教育でいいことなんだったらこのままでいいじゃないですか。なぜ統合するんですか。まず言いたいです、それを。それから現実問題良いことばかり言って、現実問題を何も言ってないじゃないですか。スクールバスにしても、何も言ってないです。どうなってるんですか、スクールバスは。出すんですか、出さないんですか。</p>
高沢教育長	出しますよ。
B	<p>出します。じゃあ例えばですね、毛呂山小学校に行くには泉野小の方がほとんどですよ。スクールバス。それで毛呂山だと目白台1、2丁目、それと箕和田、岡本団地の子がだいぶ乗るんですよ。何人ぐらい乗るんですか。</p>
石田課長	<p>ただいまの質問のスクールバスのところをお答えいたします。スクールバスの方ですね、先ほどから申しましている通り、保護者の方々のご不安なども、距離が遠くなることに対する通学の不安というのが大変ございましたのでスクールバスの方は整備いたします。</p>

B	それはわかってます。時間が無いんだから、何人乗るんですか。
石田課長	距離を打ち出しまして、3キロ以上の児童に対してスクールバスを整備するというふうに考えております。
B	だから、何人乗るんですか。利用する人数は分かっているんじゃないんですか、もう。何を言ってるんですか。
石田課長	今現在の推定の人数になりますけれども、川角中学校区であれば、50人くらいいらっしゃるというふうに把握をしております。また、毛呂山中学校区であれば30人くらいいらっしゃるのではないかとというふうに児童の推定値では考えております。
B	30人ですか、毛呂山の方は。
石田課長	はい。
B	じゃあ集合場所はどこなんですか。
石田課長	今はバスを出すという方針の方を、3キロ以上でバスを出すという方針を決めさせていただいております。そういった中で、開校準備委員会の方を来年度から開設いたしまして、具体的なバスの停留所であるとか、具体的な部分を検討してまいります。
B	なんて遅いんですか。もう何年この問題を語ってるんですか。それとですね、プールの問題なんですけど、川角中に小中一貫校にするわけですよ。身長差で水嵩はどうなるんですか。
土屋課長	学校教育課の方から、プールの関係についてお答えさせていただきます。他のですね、一貫校の取組等をやっているところですね、研究をしてみました。その中でですね、小学生が使用する時に一番多いのはプールの床材というんですかね、プールフロアというものを入れていますね、そこで水位のところを変えていくというところが、一番安全かなというところを考慮しておりますので、そういったところでですね、対応してまいりたいと思います。
B	すいません、もう1度。

土屋課長	<p>プールフロアといって、床材をプールの中に入れるんですね。小学生が使う時にはそれを入れることによって高さが変わると。何て言うんですかね。中学生だと、水位がそれなりに必要です。水も減らすという方法もあったんですが、そうすると今度はプールから水面までの高さが出てしまうので、床材を入れるような形、床の部分が高くなる床材があるんですね、プールに入れる。それを入れることでプールからの高さも問題なく、床だけ高くなりますので小学校低学年も使えるようなそういったものもありますのでそれを使っていくような形を考えております。</p>
B	<p>泳ぐときにはそれは邪魔にならないんですか。</p>
土屋課長	<p>ならないですね。</p>
B	<p>そうですか。はい、分かりました。それと、遊具はどこに置くんですか。川角中に小中一貫をしていくときに小学生の遊具はどこに置くんですか。</p>
土屋課長	<p>遊具につきましては、川角中の方についてはですね、職員室がこちらにあります。そこからですね、子どもたちの様子が見やすいように遊具候補地としてはこの辺りを考えております。職員室の横のところと、こちらの1年生から4年生が使う校舎のところと行き来がしやすい場所ということでこの辺りを遊具の候補地として考えております。</p>
B	<p>そんなところに作るんですか。何かちょっと疑問視ですね。</p>
土屋課長	<p>もし疑問でありましたら、そのあたりのご指導いただければと思うんですが、そんなところというところであるのは、どんなところというところを具体的に言っていただければありがたいなと思います。</p>
B	<p>こんな狭いところに小中入って遊べるんですか、第一に。</p>
土屋課長	<p>十分遊べるスペースですね、どんな遊具を置くかというところもありますし、狭いかどうかというところ、狭いところだけではないと思いますし、そういった部分ですね、どんな遊具を置くかにもよると思います。そういったところ十分検討してまいりますのでご安心いただければと思います。</p>
B	<p>ちょっと分からないです。はい。それからですね、いいですか、聞いて。大丈夫ですか。教育長さんにお聞きしたいんですけども、元教員なさって校長さんまでやりまして、教育者として個人的な質問なんですけれども、</p>

	<p>この統廃合の問題をどう考えていらっしゃいますか。個人的にお答えください。</p>
高沢教育長	<p>教育長の立場で今日ご参加してますので、教育長の立場でしかお答えできないんですけども、私人であっても私は今日は教育長の立場で出席させていただいております。で、この推進を進める立場の人間ですので、一校長としての、現場にいたときからこの小中一貫教育の方は私の方も教育委員会からお話いただいて推進してまいっておるものでございます。</p>
B	<p>じゃなく、この統廃合は子どもにとってどうお考えですか。</p>
高沢教育長	<p>私の立場でお答えさせていただきます。川角中学校、毛呂山中学校、教員で勤めさせていただきました。その経験から言いますと、やはり9年間の教育課程、各教科の勉強、学習内容の連続性ですよね。私は中学校の国語の教員だったんです。で、中学1年生、2年生を受け持って授業をやる時に例えばですけども、この内容はじゃあ既に小学校でどういう形で学んできたのか。例えば言葉の決まりの学習を中学校で勉強します。まず言葉の決まりの学習は、文法の学習は中学にありますけれども、どういう内容を小学校でやってきたのかもう1回小学校の教科書を復習はしなきゃいけないと思って自分なりに勉強はさせていただきました。で、1年生の例えば文法の中の品詞の種類ですとか、あるいは文節の分け方っていうのがあるんですけども、それを提示する前に小学校でこんなことやったよねっていうことを確認しながら進めてまいります。もちろん漢字の学習なんか、これもやったから、小学校でやったから分かってるはずだろっていう気持ちはあるんだけど、それを言葉に出しちゃうと生徒にプレッシャーになりますので、既にやった内容だけでもう1回復習ねっていう意味で復習プリントを作ってやったこともあります。ですから中学校の教員は小学校でどういう学習をしてきたかって積み重ねをしっかりと把握してないと、子どもたちの方に威圧的に、ここやったところだから先に進むぞみたいな、そういうことだとやはり子どもたちは中々ついていけなかったり、あるいはそのところでギャップを感じちゃったりというのはあります。そのため、中1ギャップの解消のための小学校の授業で中学校の先生も一緒にやるというのがあります。そういう面から言うとね、中学校で教科を教える時には小学校の復習内容っていうのをしっかりと把握した上でやる必要はあります。それは自分では実践してやりましたし、学校を預かる校長になってからは、今も教育長として小学校、中学校の先生方、校長先生を指導するんですけども既習内容をどういう形で、既にやってきた学習がどういう形で中学に発展しているのか各教科の先生はよくそれを研究してください</p>

	<p>いと。で、中学校の学習を進めてくださいというお願いを今も実はしていますし、ここで小学校の教科書の内容がこの4月から変わります。教科書の採択替えて違う教科書を使う教科も出てきますので、9年間の連続性を持つには中学校の方は小学校の学習をしっかり確認することが必要ですし、逆に小学校の先生は、これはどのような発展性を持つ、例えば算数の勉強が中学に行って数学になってどういった発展性になるのかってことも踏まえて基礎基本はしっかり勉強しましょうということでそれもお願いしてございます。そういう面から小中の先生方の交流も踏まえた小中一貫教育をやっていただきたいとお願いはしていますし、具体的に小学校と中学校の合同の研修会がありますので、その中でもね、そういう話題に触れて9年間を見通した教育課程を編成してほしいということでお願いはしてございます。行事やそれから生徒指導ですとか、あるいは教育相談ですとか、そういう面でも9年間でしっかりやる気をつけていきたいと思いますので進めさせていただいております。</p>
B	<p>一貫教育に聞こえるんですけど、統廃合のことについてはどうなんですか。一貫教育の内容はおっしゃる通りだと思うんですけど、統廃合についてお答えください。</p>
高沢教育長	<p>統廃合についてはもちろん推進させていただきたいと思います。</p>
B	<p>そうですか、はい。それじゃ、幼稚園出たての子どもと中学生、成長段階が違いますよね。小学生低学年の間はどちらかという騒ぎたい方ですよ、静かにしない方ですよ。中学生は静かな方が、大人の段階に行くから静かな生活空間を求めたい方ですよ。それを一緒にすることは人数が多くなると、先生が静かにしなさい、あれしちゃいけません、これしちゃいけません、そういう規制が多くなりますよね。やっぱり子どもにストレスっていうか負担がかかると思うんです。子どももそうですし、先生も毎回毎回あれしちゃいけない、これしちゃいけない、そういうストレスが溜まったらどうなるかということです。</p>
土屋課長	<p>私の方からお答えさせていただきます。そういった意見もありました。あり方検討委員会というか今までの検討委員会の中でもそういった意見もございましたので、今回は1年生から4年生までが新しい増築校舎というようところで考えております。職員室はこちらになりまして、中学生と5、6年生ですね、がこちらの校舎に入るような形になっていますので、そういったゾーニングという言葉は先ほど説明の中で使わせていたんですが、生活空間を分けるというようなところでございますので、1年生から</p>

	<p>4年生までに関しては中学生にストレスがとか、騒げないとか、騒ぎ方にもよると思いますけど、そういった部分については分けておりますので、ストレスが無いような形で生活できると十分考えております。また5、6年生につきましては、小中一貫教育の考えではあるんですが、また国の方もそうなんですけど5、6年生から教科担任制というようなこともいつてきています。こういった部分で中学校教員がいかに関わるかというところをポイントにしていますので、5、6年生についてはこちらの中学校校舎の中に入ってですね、そういった教育を充実していくというような考えで今回案として出させていただいたものでございます。</p>
B	<p>城山小学校、城山小学校って言わないですね。今、坂戸の。</p>
高沢教育長	<p>城山学園です。</p>
B	<p>学園ですね。そこは小学生の低学年がプレハブで分けてるんですけど、中学生が試験のときに小学生が音楽の授業やっていると、うるさくて集中できない、試験に集中できないという報告もあるんです。</p>
土屋課長	<p>私の方からお答えさせていただきます。また音楽がというところではあるんですが、川角中の場合、音楽の教室はここになります。一番端っこです。こちらになっておりますので、例えばここで小学生が音楽の授業で歌を歌っていても中学生はこちらで試験をやっていますので。</p>
B	<p>そんな、聞こえるでしょ、防音装置が無い限り。</p>
土屋課長	<p>そこまで聞こえてきていない状況ではございますし、あともう1つは試験の日というのはずっと試験をやっているわけではないので、午前中にとかっていうところもありますので、時間割の工夫もできますので、そういった配慮も十分やっていきますのでご安心いただければと思います。</p>
B	<p>安心できないです。はい、できないです。それで、そういうストレスが溜まる、小中一貫校をなさっている学校の報告もあります。人数が多くなると、生徒ばかりが多くなってストレスが嵩む、多くなることが出てくるという報告もあります。だからそういうことを考慮してないですね、絶対、全然。ただ良いこと尽くめで良いことばかり言ってるだけだっってそう聞こえます。それからですね、</p>
C	<p>他の人に譲ってから、</p>

B	あ、ごめんなさい。すみません。
石田課長	では、他の方でご質問などございますでしょうか。お願いいたします。
C	<p>Cです。よろしくお願いします。小中一貫校に関する説明会ということで来てるんですけども、説明資料を見て、それからスクリーンの説明を聞いておまして、説明者の方が決して悪いということではなくて、今回の教育委員会としての説明の全体の構成としてですね、資料の13ページまでの人口の推移、それから学年に2クラス以上が欲しいという部分なんですけれども、これは小学校同士を集約すれば足りる話であるから、小中一貫教育がそのまま小中一貫教育する要件には当てはまらないんですよ。要件ってわかります、必要な条件です。要件には当てはまっていないんですよ。だから、学校を集約しますよっていう話と、小中一貫校が良いですよということは別に考えなければいけないと思うんですよ。それを以前からあり方検討会も含めて傍聴していると、学校集約の事情ありきで後付けで未来を切り拓く人プロジェクトというものを作っているようなところがあるんですね。なので、まず教育委員会として本来の立場であると、行政と教育を切り分けてくださいっていうのが私の客観論なんです。で、資料の13ページまでのところの廃校区に関してはあくまでも小学校を集約すれば足りるということになりますので、それではダメだという何か要件が無いとそもそも小中一貫校の前提としては成り立たないです。そこは説明をお願いします。もう1つ、資料の16ページですね。小中一貫教育が目指すもの、導入の主なねらいとあって、①から⑤まであるんですけども、ここで2つ感じるのが、④の教育環境の充実を図る、どうやって。学校、家庭、地域との共同体制を作り、子どもの教育環境の充実を図る。こうやって1つ1つ熟読していくと、別にこれ小中一貫教育じゃないよねって、省けるものが出てくるんですよ。もっとスリム化して説明する。そうすると、やっぱり私がこれを見ていると小中一貫校の連携を通してとか、①の小中学校の9年間の見通しをもってとかって前振りをつけることによって全然小中一貫と関係ないことを、さも小中一貫校が良いんだみたいな言葉のマジックをやっているわけですね。それをやると住民の方としては教育に対して不信感が出るんですよ。そういうところを除いて、そういうのいらぬから本当に大事なところ、②の中1ギャップを解消して中学校段階の学習の躓きや不登校の解消を図ると書いてくだされば、それが先ほどの教育長のお話を伺ってれば確かに②の通りだなんて理解できるんですよ。そういったことで資料全体の今回の説明、来週の説明もそうなんですけれども、もうちょっと、住民を誤魔化そうという気が1ミリも無いこ</p>

<p>土屋課長</p>	<p>とを願いますけれども、そういうところで真剣にやっていただきたいんです。で、先ほどの質問の回答はいただけますか。</p> <p>では私の方から。全体的な説明の流れの中でですね、小中一貫教育と小中一貫校についてを切り分けてというようなお話だと思います。その中で小中一貫教育については、ほぼ反対をしている方はいないような状況であると思います。昨年度のあり方検討委員会等でもお話を受けているところで、小中一貫教育というのは是非進めていってほしいというような意見もございましたので、現在進めているところであります。で、今回の施設形態につきましては、平成30年の時の小中一貫教育のプロジェクトを進めるにあたって同時に施設形態についても検討していたものであります。小中一貫教育がより充実する、より良いものにしていくのに、やはり施設形態も外せないであろうというところから、施設形態について考えていって検討していたものであります。それについて、より充実していくためには、川角中学校区は施設一体型、毛呂山中学校区は施設隣接型というような形で進めていきたいということで説明をしているものでございます。なので施設形態、小中一貫教育については場所によっては施設分離型といって離れた学校でも行っているものもございますので、主に3つの施設形態でやっているというところがございます。今回、教育委員会として選択したものが一体型と隣接型でそれぞれを進めていくというような形で説明をさせていただいているものとなっております。</p>
<p>C</p>	<p>それで、施設一体型と施設隣接型が望ましいというものが広報に書いてあった記憶があるんですけども、小中一貫校の教育のねらいという文言だけの先ほどからの説明を受けている限り、施設分離型、つまり現状の小学校、中学校を活用したままでもすぐに始められますよねって思うんですよ。なんでこんな良いことをわざわざ令和11年まで先送りするんですか、それは結局学校を作りたいからでしょ、作る事情があるからでしょってなるんですよ。それならば教育のね、今は試験的に何か行き来しているというのは先ほどありましたけれども、そんな良い結果が出るならば来年度からでも施設分離型で小中一貫教育を始めたら良いんですよ。それはどうですか。</p>
<p>土屋課長</p>	<p>小中一貫教育につきましてはもう始めております。分離型も含めて中学校の教員も、毛呂山中、川角中の教員がそれぞれ乗り入れ授業という形で泉野小学校、毛呂山小学校、光山小学校、川角小学校というような形で一貫教育の方は既に進めているものでございますので、いわゆる分離型でかつ</p>

C	<p>1つの中学校と2つの小学校というような形で今進めているところでございます。</p> <p>そうすると、分離型で今現在行っていて、それが分離型のままではよろしくないということはどこなんですか。</p>
土屋課長	<p>よろしくないというような形ではございません。今の段階でもですね、例えば不登校云々という話でいくと、先ほどの毛呂山中学校の取組を見ていただいたり、川角中学校でも交流が進んでいるので、今現在の状況としては中学校1年生で新たに初めて不登校になるような生徒がいないような状況も出ていたりですね、ちらほらと状況というか学校から良い報告を受けているところではありますので、一貫教育としての成果は出ているというような捉えはしております。それをさらに良くするために今後ということで、先ほど話があったような、施設の例えば老朽化の問題であったり、あとは教職員数がどうしても1つの学校でクラス数が減っていくと教員数も減っていくと、1つの学校で見ていく先生が減っていく。そういった現状も踏まえて、今後さらに良くするためにというようにところで考えているものであります。同じ交流するにあたって、施設形態だけの話ではないんですが、1小、1つの小学校と1つの中学校の方が連携が当然しやすいんですね。中学校の先生が2箇所に行くよりは1箇所。地域と家庭との連携のところもまさにそうかと思えます。色々な地域の方が1つになるためにも拠点が1つのところの方が訪問もしやすくなりますし、そういった情報もあります。そういった部分も含めて検討した結果を今日説明させていただいてるような形になります。</p>
C	<p>従来で既に小中一貫があつて、仮に施設分離であっても問題ないということであると、今度は施設の老朽化の面で考えると、ここの泉野小学校が1番新しいんですよ。そうすると、一般的に、客観的に私は最初に小中一貫を見たときに泉野小学校と毛呂山中学校の施設分離型小中一貫校を実現するのが1番町にとって望ましいなと思ったんですよ。それを何で泉野小学校にしないんですか。</p>
石田課長	<p>施設の関係もございまして、教育総務課の私の方からお答えさせていただきます。おっしゃいます通り、小学校の中で1番新しいのは泉野小学校になっております。今のお話だとあくまでも例えなんですけれども、泉野小学校に毛呂山小学校を統合して、泉野小学校の場所での毛呂山中学校区の施設分離型での小中一貫教育。こちらに関するご質問だというふうに理解いたしましたけれども、先ほども説明をさせていただきました通り、小</p>

	<p>中一貫教育、施設分離型でも実施は可能ですし、もう既に行っています。そういった中で、1小に対する1中である方が教員の連携がしやすい。そして、その距離は近い方がより教員の連携がしやすいということもございます。そういった中で毛呂山小学校、毛呂山中学校の、今現在でも隣接しており、土地も橋を通じて一体型として繋いでいる、この形態での施設隣接型の小中一貫教育。こちらを進めたいというふうに教育委員会は考えておる状況でございます。</p>
C	<p>それで、実際に今年小美玉市に見学に行ってその状況っていうのは議員さんがどうだったって感想っていうのがレポートが町民に伝わってないんですね。そうすると現段階だとそういう見に行った感想が出てないで、何の比較もしようがないので、まるで慰安旅行に税金使った行った印象しかないんですよ。せっかくこの場でね、議員さん今日いらっしゃるので、ちょっとD議員、E議員にね、実際に行かれてどうだったかっていうことを立場でまず発表を私は聞きたいです。</p>
高沢教育長	<p>D議員、よろしいですか。</p>
D	<p>Dです。それでは感想を述べさせていただきたいと思います。小美玉市はまず、毛呂山町と状況がまるっきり違うということもありました。それぞれの地区で分離型だったり一体型だったりその地区によってそれぞれ合ったやり方、方針を進めているということでした。それは非常に勉強になりました。今までは毛呂山町のお互いにどっちか、分離型か一体型どちらかを同じ中学校で行おうと思っていたわけですから、その部分で毛呂中と川中両方でそれぞれ違う形態でこれから進めていくということは非常にプラスになったんじゃないかなと思っております。あとは、時間も限られた研修だったものですから、また今後も小美玉市、さらには参考になるところに個人的に視察に行きながら勉強しに行こうかなと思っております。それと、先ほどお話がありましたけれども、やはり人口推計というのは私は一番タメになると思うんですね。出生人口、そのところがしっかりと的確に捉えている中での将来形成を見据えた中で今後どうしていくかということを進めていければ一番良いんじゃないかなと思ってます。なぜならあくまで子どもたちの将来の一番希望になるようなものが作られていくのが一番良いんじゃないかなと私は思っております。以上です。</p>
C	<p>ありがとうございます。E議員もよろしいですか。</p>

土屋課長	<p>は無いということですよ。ちょっとその違いが分からないので教えていただいていた方がいいですか。</p> <p>では、私の方からお答えいたします。義務教育学校と小中一貫校の違いでございます。義務教育学校につきましては、義務教育の9年間を連続して行っていく学校になります。1年生で入学をして9年生で卒業するというような学校になります。校長が1人。それです、1年から9年というような形で教育を行っていく学校になります。近隣で言うと日高市がですね、武蔵台小中学校が今義務教育学校でやっているような形です。で、小中一貫校につきましては、近隣で言うと城山学園になります。こちらが小学校と中学校それぞれ、城山学園は施設一体型ではあるんですが小学校と中学校がそれぞれあるというような形になりますので、小学校1年生で入学をして小学校6年生で卒業して、中学校1年生で入学して中学校3年生で卒業するというような形になります。以上です。</p>
C	<p>ありがとうございました。</p>
石田課長	<p>後ろの方、お願いします。</p>
F	<p>すいません、Fと申します。質問の前に1つ、先ほど私が前の学校で遊具のことを質問しました。何であそこにまとまっているんですかって言ったんですけども、どこの小学校でも遊具は学校の端っこに散らばっています。それを職員室から先生方がそれなりに見えています。だから、そこにまとめて置く必要はなくて普通の小学校のように川角小学校の端っこにいっぱい色々やっていただいた方が子どものためにはなるのかなというふうには考えております。すいません。今回私はお金のことについて聞きたいと思います。毛呂山町は財政難でお金が無いんだというふうな方針を聞きました。町役場の改修費が2億とか3億とかかかってそこで滞って大変だ、税金が無駄遣いされすぎたっていう話もありましたので、お金はやっぱし使うと結局住民の税金として負担しなくちゃいけない部分が出てきますのでいくつか伺います。4校を残した場合は校舎の改修などにかなりお金がかかって大変なので、今の方がお金がかからないというふうなお話を聞きましたので、その辺の数字を知りたいなと思いました。4校残した場合は、大規模改修を3校、4校ともしなくてはいけない。だけどずっと前に町の方で呼んだ大学の先生が鉄筋コンクリートは100年持つと。だから一般的に言われている40年で大規模改修、60年で建て替えというのは当てはまらない。改修とか修理の仕方でももつんだよというようなことを言われました。それで町の方はそれから言わなくなったん</p>

	<p>ですけれども、大規模改修をしたとして4校、一体いくらかかるのか。多分40年計画のことだと思っんですけれども40年かかってそれが一体いくら必要になるのか。あるいは人件費として町費を出した場合、その町費がいくらかかるのかとか、そこら辺の4校を模した場合、一体どのくらいの金額が合計としてかかっていくのかというところが1つ知りたいのと、それと比べて今の状態だとどれくらいマイナスが少なくて済むのかというところをやっぱ知りたいと思います。スクールバス代がかかる、けど人件費で学校が減るから町の出す町職員の方が減っていくと思います。ただ校舎は残すと、廃校にした後も校舎は残しますというふうに町長もおっしゃっているんで利活用しますということはその残った校舎は活用するんだから、やっぱし廃校にしたところに手を加えて何かに使えるようにしておかなくちゃいけない。例えば泉野小学校だって避難所としてここら辺はここしか無いんですよ。他には無いんですよ。だから他の小学校は近くにあるかもしれないけど、ここはどうしても無くすことはできない避難所なんです。そのためにもやっぱしお金をかけなくちゃいけない。そうするとやっぱし他の学校も含めてその施設を維持する、使えるようにする、利活用するためにはどれくらいお金がかかるのかと、そういうふうなところを詳しく聞きたいなって思っています。もう1つ、今まで小学校にどれだけお金がかかっているんだろうかっていうことのも気になります。耐震は全部終わっています。トイレの改修も先ほどのグラフでありましたけどほとんど終わっています。それからエアコンもついてます。そしてタブレットのために無線LANも全部各教室にひきました。そしてこれから体育館に子どもたちとか寒くないように、あるいは避難所のためにエアコンを入れます。そして特別教室にもエアコンを入れます。そういうふうなもの、4校ともいくと莫大な金額になると思うんですけど、それを捨ててしまっって全く新しく14億使って作るのはいいかどうかってそういうふうな判断材料として私たちに示してくれることは、ごめんなさい、教育委員会さんをお願いするのはあれなんですけれども、お金の関係もやっぱし、これからそれがすごいかかるようだったら子どもたちはすくすく伸びるけど、その子たちが大きくなってお金をたくさん払わなくちゃいけないということになりますので、やっぱり大きな判断材料になると思いますので、それは是非今日じゃなくても結構なんですけどもお願いしたいと思います。以上です。</p>
石田課長	<p>それでは教育総務課の方からお答えしたいと思います。まず施設の関係になりまして、施設を4校に残した場合どのくらいの金額がかかるのかというところですけども、まず今回、毛呂山中学校区の毛呂山小学校を改修いたします。こちらの改修はあるもの全てを改修するというのではなく</p>

	<p>て、使う部分をきちんと精査しての改修ですけれども、毛呂山小学校だけの改修というところでも、約6億2000万がかかります。これが毛呂山小学校だけになります。他の小学校も同じように改修が必要であれば、どの部分を使っているかとか、また毛呂山小学校の場合は棟が離れているので割と使う部分というのを区切りやすいんですけども、小学校によってはその区切りが中々難しい校舎もございます。そういうところをしっかりと限定していかなければならないのですけれども、毛呂山小学校でそれだけの金額がかかる中、大まかに使えるところを計算させていただきまして、体育館まで含めると毛呂山小学校を含んで約30億円くらい4校を維持するためにはかかるというふうに捉えております。それは必要な面積に対して必要な平米数の単価というところを出しておりますので、実際にどこをどのように直せるかというそこまで精査をした数値ではございませんということをお伝えいたします。そういった中で、今まででどのくらいの金額が、今のが4校を維持していくためにかかる金額ということでお伝えした大まかな数字なのですけれども、今まで4校に対してどのくらいの金額がかかってきたかというのは小学校ということで参考までにお答えいたしますけれども、令和2年の7月に出した数字ということで約18億近くが改修工事であったり、エアコンの整備であったり、トイレの改修であったり、電子機器の整備であったりかけております。ただ、これはそれぞれの目的に対してかけてきた費用ということで、こちらの費用をかけたから先ほど4校を仮に残した場合かかるという大規模改修、こちらの方を行わなくてよろしいかという、そこはまたお話が違うというふうに考えております。なぜならばトイレ改修というのはあくまでもトイレに対して行っておりますし、耐震補強というのは耐震に対しての補強行為となっておりますので、その他に子どもたちが今後長期にわたって小学校を利用するためには改修工事の方は必要というふうに考えております。以上でございます。</p>
F	<p>体育館のエアコンとかそこら辺はまだ。</p>
石田課長	<p>体育館のエアコンに対してどのように進めていくかというお話でよろしいかと思うのですけれども。</p>
F	<p>新しく14億かけて作る形の小中一貫校ありますよね、はい。それが40年かけてこれから使い続けていくためには、その学校の費用と小学校を維持、利活用するためのお金っていうのは出てますでしょうか。</p>

石田課長	只今の質問、体育館の関係では無くて、学校編成ということで施設の整備をしている中での施設整備費というふうに捉えさせていただきますと、まず先ほど申しました通り、毛呂山小学校に関しましては大規模改修の方をしっかりと行って、これから使い続けていくための整備をする。川角中学校区の川角中学校に入る小学校に関しましては、1年生から4年生までの増築校舎と、現在の川角小学校の教室だったり学校の方を小学生が使いやすくする整備というのも当然必要になってまいります。階段の高さが小学校と中学校は違いますので、手すりを付けての整備というのは必要となってまいりますので、そういうところの費用になっております。
F	それはいくらですか。
石田課長	川角中学校区にかかる費用というところでは、約7億7400万円というふうに出しております。
F	じゃあすいません、続けて。スクールバスを維持していくことになると思いますが、それがどれぐらいかかりますか。
石田課長	スクールバスの関係ですけれども、具体的にバスを購入する、委託をするというところはしっかりとこれから具体性を出さなければいけないところですが、今見込んでいる費用といたしましては、町全体として約3300万円ほどを考えています。
F	それは町で買い取ってそれを運行するというのでしょうか。バス代とか、そういうことは入っていないんですか。
石田課長	先ほどお伝えしました金額は、委託をするということで考えておる金額でございます。
F	分かりました。じゃあそれが1年ごとに必要ということですね。はい、分かりました。 あと、川角だけ何か3校を維持するというふうなところについてはどうなってますか、考えてますか、そこら辺、すみません。
石田課長	申し訳ございません。ご質問の方、もう一度お願いしたいと思います。
F	町長が議会で3校を廃校にしてもそれは売らないと、これからその3校を残しますと、そして利活用しますというふうにおっしゃいましたので、そ

	<p>の利活用するためには廃校になったとしても、やっぱり利活用するためのお金とその学校等を維持するためのお金が必要になってくると思うのですが、それについてはありますか。</p>
石田課長	<p>学校の利活用についてのご質問だというふうに考えます。残った施設の方を利活用するためには必要な、例えば改修があるのであれば改修であったり、維持であれば維持であったりというところが発生するのが想定できることだというふうに理解しております。そういった所も踏まえまして利活用するという方針が出ている中で、これからは具体的にどういう形で利活用していくかというところをしっかりと検討していかなければならないというふうに考えております。</p>
F	<p>ありがとうございました。何となく利活用するためにそれを残すということになると、4校を残すのと同じくらいの維持費用がかかるのかなって気もしますし、プラス、一貫校にするとその10何億っていうのがプラスアルファとして乗っかってくるのかなっていうふうな気にもなりますけれども、すいませんそこら辺のところちょっと分からないので、はい、すいません。</p>
石田課長	<p>整備をする関係と維持をする関係だというご質問だと思います。整備をする関係には国の方など色々な補助があると思いますので、この金額をこのまま町の負担になるということは無いです。そういった中でおっしゃっているのは建てる方でまず費用がかかって、維持をする方でも今と同じようなランニングコストというところですけども、どういう利活用をするというところを、これから具体性をしっかりと出していく中で、どこまで今と同じ維持になるかということも自然と導かれるのかなというふうには考えますし、まずは利活用する方法の中でも、貸し出しの方法というのもございますので、貸し出しの方法も含めて検討していかなければならないというふうに考えております。</p>
F	<p>ありがとうございました。そこら辺のところも、やっぱり説明会には必要だと思いますので今回の説明の時には何も無かったので、是非次回にはそこら辺も併せてやっていただけるとありがたいと思います。よろしく願います。</p>
C	<p>回答に対して疑問があるので、そこを先に質問させてください。今のスクールバスを委託した場合に毎年3,300万円かかるという回答があったの</p>

	<p>で、その試算というのはバスの台数が決まっていると思うんですよ。何台ですか。</p>
石田課長	<p>バスの台数に対するご質問ですけれども、令和11年度の児童数の推計から考えておまして、町全体といたしまして中型、小型バス含め3台というふうに考えております。</p>
C	<p>3台、承知しました。</p>
B	<p>すいません、先ほど子どもの人口が減るっておっしゃって、確かに減ります。でも近隣のところから見ると毛呂山は11年度でもかなり多いんですよ。ときがわは700人でしょ、鳩山は300人、400人、越生も400人、毛呂山は1,200人いるんですよ。だから今なぜ統合しなくちゃいけないんでしょうか。それからなぜ学校の形態が違うんですか、毛呂山中と川角中に入ってしまうわけですよ。小中一貫校にするわけでしょ、川角は。毛呂中は隣接型なんですよ、なぜ違うんですか。</p>
土屋課長	<p>私の方からお答えさせていただきます。近隣と比べて児童生徒数が多い状況でなぜ一貫校をしていくのかという統合の部分になると思います。なぜというところではあるんですが、先ほど説明したようにやはりクラス数に毛呂山町としては注目しています。今までも検討委員会、平成25年から話をしていた中で保護者の方にもアンケートを28年にとった結果、単学級等はあまり望んでいないこともありました。そういった背景を踏まえて各学年でクラスを2学級以上を確保できるときに進めていきたいと思います。というような形で受けていました。本来であれば個別施設計画等でもお示しさせていただいているように令和8年に川角中学校区、令和10年に毛呂山中学校区というようなところであったんですが、コロナの関係であったりとか、国の方から35人学級というような制度が入ってきました。そこで見直しをもう一度して、昨年度小中学校あり方検討委員会というところでもご意見をいただきながら、今回の計画案の策定となっておりますので、人数でやっていくというのではなく、地域の実情であったり、毛呂山町の方では学校のところがバランスよく配置しているなというところもありますので、そういった部分で通学距離についてもスクールバスで補うことができるというふうなことを総合的に考えての案となっております。またですね、施設形態が違うところにつきましても、最初の計画ではどちらの中学校区も施設一体型、これが小中一貫教育を進めていく、充実するには一番良いと捉えて目指していたんですが、隣接型と一体型でそれぞれ毛呂山小学校もございまして、橋を架けて一貫教育やっている中で隣接型</p>

	でも一体型と同じような効果を出せるであろうというような考えから進めているものでございます。川角中学校区については隣接型を作るというようなところではございませんので、広い敷地を使って一体型の方を進めていくというような形で別の形態ということでございます。
B	それだったら別に光山と川角小を一緒にして、川角中と別にした方がいいんじゃないかと思えますし学校の先生の移動が大変なら近いでしょ、光山なら。どうですか。
C	すいません、質問が私と重複していると思うんですけど、それでいいんですか。先ほど回答済みでないですか。
土屋課長	泉野の話ですよ。
C	はい。
土屋課長	はい、一緒ですね。
石田課長	すいません、私の方から先ほどお答えしておりますので、答えさせていただきます。先ほどもお答えしました通り小学校同士の統合というところで、学級数を増やすとか児童数を増やすというところはそれで解決すると思います。その上で施設の改修であったり、そこで小中一貫教育を行う中で一番より近い距離であったりする方が小中一貫教育の効果は高いというところでのご説明を先ほどさせていただきました。
B	納得いかないです。それでこの案がでたときに財政難、少子化、老朽化っていう3つの柱で統廃合しようという計画が出ましたね。財政難、違うんですか。財政難、少子化、学校の老朽化の3つの柱で統廃合しようという案を出したでしょう。
石田課長	そのときの説明では、まず少子化がありまして、少子化に伴う教室数の減少、そして施設の老朽化というところでご説明はさせていただいております。
B	財政難なんだったらなぜ14億円なんですか、修復にかかるのが14億円でしょ、住民の人だって財政難だったら統合も廃校するのも仕方ないねって人が多かったです。でも今回14億円計上しましたね、なぜですか。教

<p>石田課長</p>	<p>育長さんが寄附するんですか14億円。それとも町長がやるんですか。寄附するんですか。</p> <p>費用に関するご質問だと思うんですけども、こちら先ほどご説明をさせていただきました通り、約14億円こちらすべてが町の負担ということではございません。国の補助などもございますし、いろいろ補助などを使わせていただいてこちらの方の費用の方は準備いたします。また、同じように小学校を4校残すという費用もございますが、こちら先ほど申した金額、毛呂小含めて約30億なんですけども、その30億もそのまま30億円すべてが町の負担ということではございません。そのところはご理解いただきたいと思うんですけども、そういった中で毛呂山町はまず施設の老朽化というところでしっかりと児童生徒の安全のために施設の方に手を入れていくというのも、これは教育委員会として非常に大切なところというところは分かっていたところかと思えます。そして施設の方の整備と共に、いかにそこで子どもたちに対して教育を進めていくかというのも合わせての教育委員会の責務だというふうに考えております。このような中で小中一貫教育を一番行いやすい形というのが施設一体型であり、施設隣接型で教育を行っていく。そしてその施設形態で行っていくときの費用が先ほど申しました金額がかかるというところをお伝えしているところでございます。</p>
<p>C</p>	<p>町の負担はいくらなんですか。</p>
<p>石田課長</p>	<p>町の負担というご質問なんですけれども、整備をする中でですね、いろいろな種類の補助金というのがございます。その補助金のどの補助金を使うのが一番町にとって効率的かというところをしっかりと精査をして金額の方は出して行きたいというふうには考えております。</p> <p>では、次の方お願いいたします。</p>
<p>E</p>	<p>1つはですね、今日はこの人数ですと住民説明会だとはいえないと判断しまして、各学校で毎年行っておりますPTA総会、その場所での教育委員会からの説明会をやりますか、です。</p>
<p>高沢教育長</p>	<p>ご質問にお答えしますが、PTA総会は新年度が始まってPTAの役員とそれから行事や予算決算が決まってからやるものですので、大体早くて4月の下旬、5月のGW明け等にかけてやっております。今回のこの説明の内容、策定(案)についてはこのあとパブリックコメントを経て3月には</p>

	決定させていただきたいと思いますので、PTA総会で説明する内容は決定後の内容を再度お伝えするということになるような形になります。
E	いいでしょうか。やってください、説明会。是非やってください。お願いします。というのは住民の声を聞いて熟考することが大事だと思うんですよ。今私は住民を聞いてるとは思いません。前のあり方検討委員会を踏まえてとおっしゃいましたが、私あれを踏まれば今回の計画案は出てこないと思っていたのに、あれを踏まえてというか、恐らく無視したのかなというくらいの感じがあります。ですからそれは非常に残念なことです。もう1件。
F	今の関連で、今までの説明会で、保護者とか、未就学児の親とか、住民とか、今回は20人くらいだと思うんですが、どれくらいの人数の方が参加してお話を聞いていたのかというのがちょっと知りたいんですけどお願いいたします。
石田課長	そうですね、今までの参加の人数というところですけども、全体の保護者に対しては参加人数が少なかったという印象ではあります。
F	正確な数はわかりますか。大体でもいいんですけど。保護者は6校、6回開いたんですよね。小学校2校と中学校1校で3校ずつで2回。そして未就学児の方も開いてますよね、そこで何百人と来て、皆さんが聞いて理解してらしたらわかるんですけども、あまり参加していないという話を聞いたので、どれくらいの参加があるのかなと思ってお聞きしたところです。もし参加が少ないのであればやっぱそれは住民説明会とか保護者説明会が成立、とりあえずやったけれども皆さんが本当にわかったということにはならないんじゃないかなと思います。
石田課長	人数の方はですね、100人も来てはいないという状況でございますけれども、そういった中でこれから未就学、小学校に入学する説明会などもございます。そういったところを利用して、いろいろな方に、未就学の方々にご理解いただけるように説明をすることや、また町のホームページの方でですね、先ほど説明しました内容のようなものを動画などで流させていただきます、しっかりと理解、皆さんに目に届くような努力はさせていただきますというふうに考えております。
土屋課長	すいません、補足をさせていただきます。今、教育総務課長から話がありましたように今回の説明のことにつきましては、教育長の方からの説明動

	<p>画ということで、このあとホームページにアップをしていきます。動画の方ですね。それでそちらにつきましてもリーフレット等も用意しておりますので、各学校を通して各保護者の方への情報提供してまいります。この後の1月の後半から2月の頭にかけてですね、今度は小学校、中学校のそれぞれの新生の保護者に対しての保護者会がございます。そちらの方では全部の説明をするという時間は中々とれないんですが、簡単に説明をさせていただいて、詳しくはホームページに説明動画ございますので、そちらも見ていただいてパブリックコメントもっておりますので、質問等についてはパブリックコメント等で受け付けて行くような形で周知の方を考えておりますのでそういった形で進めてまいります。</p>
F	<p>理解していただきたいというか、皆さんに知らせたいんだったら例えば今日の説明会も防災無線でありますと言ったりとか、いろいろな形で知らせるべきだったと思うんですね。この計画を決めるのが3月と決められているみたいですので、さっきの話で。それだったらやっぱしもっともっとそれまでにアンケートをとったりいろんなことをして、保護者の皆様に知っていただかないと本当に教育委員会が突っ走っているみたいな感じになってしまっているんですね。さっきおっしゃったように2学期制の時は3学期制に戻すことができましたけれども、これは実際にやってしまって、皆さんがやっぱしこれは良くなかったから戻してほしいとおっしゃったら、どうされるんですか。それが一番心配です。2学期制のこともあるので、ある意味教育委員会は信頼できないというような、そういうふうな思いも町民にはあります。そこら辺をちゃんとクリアして動いてもらわないと、今度は大きなお金も動くし建物も建っちゃうわけですから、戻りようがないわけですね。つくば市の市長も建物が建っちゃったからどうしようもない、それでやるしかないみたいな話をされてましたけど、それは子どもにとってとても不幸です。嫌なときに、嫌なとこにいなきゃいけないという訳ですから。だからそのためにはやっぱし保護者にもっと具体的にバスはこうなります、停留所はここです。建物はこうなります、小学生と中学生はこういうふうに川角中の校庭でこんなふうに遊びますとそういうふうなことを保護者が分かるように言ってくれないと保護者は分かんないんですよ。自分の子どもがどうやって遊んで、どうやって学校で生活するかということが目に見えて、初めてそれが子どもにとっていい物かどうなのかということが理解して賛成、反対になるわけです。だからはっきり言って今日の説明されたような何となくのことだと、理解できません。だから先ほどおっしゃったようにデメリットですか、それが本当にクリアされているのかというのを説明してほしいなと思います。すいません。</p>

<p>土屋課長</p>	<p>私の方からいくつかお答えさせていただきます。戻る戻らないという話もございました。そこについてなんです、先ほど人口推計等も見ていただいて子どもがどんどん減っている状況でございます。こちら国の方でも少子化対策というところではございますが、こちらの子どものどれくらい増えるかというところこちらについてだと思えます。ものすごく人口が増えて子どもが増えるということになっていけば、つくば市はまさにそれだと思います。つくばエクスプレスが通ってとてもいろんな方が入ってきていたと、すごく人数が増えてきたというところ、そういった中で新しい小中学校、義務教育学校を作っていて、ここで教育が受けられるならということでもすごく人口が入ってきたというところで今困っているような状況だと思います。こんなに人が増えると思わなかったという状況かなと思っております。そういったところも含めて考えていくのと、今いろんな人の意見を聞くと時期としてもうちちょっと先じゃないかとか、もう少し少なくなってしまうかということであれば、それはなぜ早く、今のうちからよりよい環境を子どもたちに与えていくことっていうのを教育委員会は考えておりますので、この先に統合するのであれば11年度でもいいんじゃないんですかというところも私の中にはあります。より早い段階で子どもたちによりよい環境を与えていきたいというのが教育委員会の思いでございますので、そんな中で戻るというような選択肢というのは、本当に子どもの数がものすごく増えて、それこそ当初計画していたよりもものすごい児童・生徒数になってしまったというような状況を想定した場合であるのかなと考えております。そういったところで、またですね、確かに保護者説明会であったり、未就学児の保護者の方の説明会で、人数がものすごい人数来ていたわけではございませんが、そんな中で同じように説明をしたときに意見としてここまで詳細なものがあって安心しましたという声もありますし、こういった細かい部分っていうのを聞いていただいたので本当に賛成できますということもあります。また未就学児の保護者についてはやはり通学ですね、スクールバス、これももっと出せないかというところもございましたので、いわゆる学校を統合することに反対というようなご意見ではなかったというところもございますのでそういったところも含めてこれから情報提供していきますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>F</p>	<p>すいません、つくば市のことは誤解です。人が増えすぎて困ったのではなくて小中一貫校を作った結果、施設一体型の小中一貫校がすごい子どもたちにとってマイナスな面がいっぱい出てきて、子どもも保護者もこれでは困るというふうに言われて小中一貫校をやめたんですよ。それでやめたけれども、施設はもう一体型になってしまっているからこれを戻すには大変</p>

	<p>で困っているという、そういうふうないきさつですんで、人が増えたからとか減ったからではなくて、小中一貫校自体がいいか悪いかという問題でつくば市は悪いということになったというそういうふうな話でした。すいません。</p>
E	<p>2つ、1つはですね教職員へのどう思いますかと問いかけが来たということを知りましたが、町内全教職員へのアンケートを実施してほしいです。それが1つ、もう1つ、今必要なのは意見と感想です。例えば泉野小学校、子どもからも先生たちからも保護者からも毛呂山小に行きたいという声は聞きませんよ。ここからここへ来て勉強して、広い運動場、広い体育館、わざわざスクールバスにあるいはスクールバスに乗れないぎりぎりなところは危ない踏切を越えて毛呂山小に行くとか子どもが可哀想です。あとはお父さん、お母さん、保護者の方も、毛呂小よりも泉野小の方が来やすいですよ。5年後だって人数がそんなに極端に減るわけじゃないから、ということで私は断固反対の立場でいます。質問にも答えてください。</p>
C	<p>先ほどの回答で質問が、というか質問とお願いが含まれるんですけども、まず分かりやすく言うと、皆さんが家を買うときに不動産屋さんに連れてってもらって営業マンがこの家良いですよと言ったら、良いかどうかは買い主が決めることだよと思うんですよ。それと同じで私が今日の午前も含めて説明を聞いていると子どもたちによりよいとかっていうんだけどよりよいは押しつけであって、いい教育かどうかというのは子どもが決めるわけだし、それを保護者がどう感じるかで決めるわけだから、それをいいことなんです、いいことなんですというのは余計なお世話としか思わないですよ。で、そういうところに温度差があるんですよ。我々同じ町内に住んでいて、同じ時間帯を過ごしているんだから、がちがちやらんじゃなくて仲良くやりましょうよ。それでつくば市の話題が出ました、これはあくまでも一町民が詳しく調べた結果出てるんですけど、これを教育委員会としてつくば市の事情を伺って、どういうことだったか事実は全部もう1回説明する、話が出た以上は説明する義務を負っていると思います。出していただきたいです。</p>
高沢教育長	<p>はい、じゃあ質問にお答えさせていただきます。つくば市の例ですとか、それから近隣の町の、町村の様子を参考にしたりお話がございました。それぞれの学校や町がですね、方向性として教育の内容等を定めていると思うんですけども本町の方は、先ほどからお話している通り未来を拓く人作り小中一貫教育プロジェクト基本方針。これが平成30年に策定されております。これを進めていくのが毛呂山の教育です。ですので、他の市町等</p>

	<p>いろいろ参考資料はあると思いますけども、だからといって方向転換するとか、だからといってこれを違う形でやるとかっていうことについては考えておりません。この基本方針に則って、小中一貫教育そして施設一体型の学校を、一体型ではないんですけど隣接の小中一貫校の方を整備していくということでございます。これが町の方針だというふうにご理解いただければと思います。</p>
C	<p>ただいまのご説明で平成30年の未来を拓く人作り小中一貫教育プロジェクトというのは前教育長の時代だったと理解しております。資料の15ページにも書いてある通りなんですけれども、教育イノベーション、医療と福祉の融合とあるんです。で、そもそも教育に何で医療と福祉を融合するのというところが来てるんですね。私がそういうことを考えて今回ある新聞折り込みにチラシが入っていて、教育を考える会ってのがあって、そこでどうなっているかということを知ったところ、当時の未来を拓く人作りプロジェクト基本方針は5回委員会を重ねていると、3回まではなんとなく実務的な話をしたんだけど、4回目から急に前教育長が某大学との連携とか言い出して、ただしあそこは民間企業ですから、民間企業と教育を連携するのは別の話なんです。資料をみるとね、官民学の連携と書いてありましてね、それから私が非常に残念に思うのが現職の議員さんいらっしゃるんで耳が痛いんですけども、策がない議員が医療と福祉の連携って言って、そんなことやって民間企業は民間企業でやってくれて話なんでそういうところからほころびが出始めているんですよ。で、私は今日明言しませんが、なんでこの医療と福祉の融合というのをわざわざ教育に持ち込んでいるかというのは、今までの毛呂山町の長い歴史を見たらわかります。今日は口に出しませんけども。で教育業界が民間企業から圧力を受けるとか、民間企業に便宜を図るとかこれはもってのほかですから、ここは今日一切これはやめていただきたいと思います。以上です。</p>
石田課長	<p>すみません、ご質問の前にお時間も2時間経ちましたので本日最後のご質問ということで。</p>
E	<p>私の質問に答えてからお願いします。さっきの教職員アンケート、全部の教職員に無記名でのアンケートをお願いしますに対して。</p>
石田課長	<p>では、先によろしいですか。</p>
E	<p>いいですよ。</p>

B	<p>去年、あり方検討委員会やりましたね。それからパブコメもしましたね。そのパブリックコメント、今回もしますけど、その意見が反映されていません。それから先ほど教育長さんがプロジェクトの未来を拓く人づくり、こんな小学生と中学生を狭い空間で、環境の中で育ててどこが未来に役立つ人ができるんですか。不思議です。やめていただきたいです。以上です。</p>
E	<p>さっきの質問にお答えください。全教職員への無記名アンケート。</p>
高沢教育長	<p>アンケートの件についてお答えいたします。昨年12月にですね、6校の先生方、管理職の先生も交えてですね、説明会を開かさせていただきました。今回と同じようにですね、アンケートではないですけど、感想等は書いて頂いております。それは記名で書いていただいております。学校の方向性ですとか、それから存続ですとかそういうことに関して先生方に委ねるのは大変酷だと思いますし、それは我々の方でしっかりと声を受け止めて施策に則って進めていくと</p>
B	<p>おかしいです。</p>
高沢教育長	<p>これが教育行政ですので、そのところはですね、是非ご理解いただきたいと思います。</p>
B	<p>上からの命令でしょ、それは。おかしいよ。</p>
C	<p>いやいや、今の説明のとおり分があると思いますよ。学校の先生に全部委ねるっていうのは無理があるっていうのはそこは一理あると思います。それに反対って言ったらずっと平行線になりますから、そこは違うと思います。</p>
E	<p>最後に一点いいですか。日高市が小中一貫始めました。入ってきた話ですけども、一貫校には勤めたくないのということで人事、12月、これから入りますね。職員が。日高市には行きたくないという声がどんどん入ってきています。それと毛呂山町が小中一貫をやるという噂もよその町に流れていて、私が聞いた段階で既にいくつかの町から、E議員、毛呂山にはもう先生方が希望しなくなるよと、だから言っちゃ悪いけどいい人材が毛呂山に来なくなるよということを聞いてます。それを含めて私は納得しちゃうので、これはもう教員だったらピンと来ます。ですから毛呂山の人気</p>

	<p>が下がっちゃうんですよ。教育は人なりですから、一貫校じゃない方がいいという意見。以上です。</p>
C	<p>日高市の情報の出所はどこですか。日高市の例を出したんですけど、その情報の根拠がないとそれを前提に話を進めることはできないと思うんですけど。その日高市の根拠は何ですか。</p>
E	<p>日高市の現職の人が、もうすでに同じ市内の方から聞いた、その話を私は聞いたんです。</p>
C	<p>うん。</p>
E	<p>一日も早く一貫校を出たいという声を。</p>
C	<p>現職の教員から直接Eさんが聞いたんですか。</p>
E	<p>そうです。現職、現職のつながりです。</p>
高沢教育長	<p>はい、では今ご意見をいただきました。毛呂山の教育の進め方について、私たちの方は町内では積極的に発信はさせていただいておりますし、町のホームページにも載っていますのでそれを閲覧されている方はいらっしゃると思います。ただ、教職員の人事に関してだから毛呂山の方へ来てくれとか、だから毛呂山の方は来ないでほしいとかっていう発信等は一切できませんし、しておりません。他市町の先生方がいろんな情報を得ながら、毛呂山はこういう教育を進めているんだとか、坂戸はこういう形で教育を進めているんだとかというのは、ご自身でいろんなところの情報収集はされていると思いますし、その学校でその市町で教育と一緒にやっていきたいという先生もいらっしゃるかと思います。ただ人事交流等についてはご本人が異動したいですとか、こういうところで研修を積んで自分の指導力をさらに高めていきたいというのは、これは各学校の校長先生等を交えながらやっていますので、そこに私たちが口を挟むことはできませんし、来ていただく希望の先生がいらっしゃれば喜んでそういう先生はお迎えしております。ですので、今E議員さんがおっしゃったようにね、毛呂山には来たくないだとか、これから毛呂山の教育はこんなになるとかっていうことについてのお話というのはね、私達には届いておりませんし、もし仮にそういう情報があったとしても、いや毛呂山ではこういう教育を進めていますし、日高市さんはこういう教育をやっていますよねとお互いに連携できるところは連携しながら、そしていいところは見習いながらやっていきましょ</p>

	<p>うというスタンスが、これ教育委員会同士のスタンスですので、お互いのいいところはPRしますし、いやこんなところが足らないんだよね、どういうふうにやっているんだろうね、是非教えてくださいということは教育委員会の担当課長とそれから指導主事の方が積極的に情報収集や情報交換をさせていただいております。ですからそこはね是非ご安心をいただきたいと思えますし、万が一そういう先生がいたとしても、いや毛呂山は頑張ってますからねということでPRはしていきたいと思えます。さらに現職の先生がそういうことをおっしゃったとしたら、その声をその市町の教育の担当者が聞いたらどう感じるのかな。そういう先生が1人でも多く一生懸命頑張ってもらえれば、教育を進めていくということに力を入れていくと思えます。先生はね、先生というか教員はやはり子どもたちとのふれあいが、それから教育として人格形成やそれから人となりを作っていく、自分もまたそれと一緒に成長していきたいと思って先生になっている先生が多いと思えますので、最初の教員になったときの想いをね、是非しっかり持って教育活動に取り組んでいただけるように私たちはエールを送りたいと思えます。以上です。</p>
土屋課長	<p>1点だけ確認をよろしいですか。先ほどの話は一貫教育自体がということですか。</p>
E	<p>一貫教育を、今の話ですよ。一貫校による、一貫校をやっている学校には行きたくないという話が入ってきているんです。</p>
土屋課長	<p>その日高市の先生は何に対して嫌だというのが見えないんです。</p>
E	<p>現場の経験があるならわかると思うんですけど、ストレスが溜まるんですよ。中学校の先生が嫌いなわけじゃないですよ。お互い嫌いじゃないんだけど、そこで一緒にやるということで、わかりませんか、想像できない。</p>
土屋課長	<p>それは一貫教育の話ですよ。</p>
E	<p>いや、一貫校。同じ職員室だったり、あれだけでいろんなストレスだったり、これはですね、現場教員を経験していればピンときます。そうじゃないと中々伝わらない。</p>
土屋課長	<p>毛呂山町の方では小中一貫教育を進めておりますので、合同研修会等で本当に小学校の先生と中学校の先生がよく顔を合わせているんですよ。そういった素地もありますので、日高市の方はどういうふうに進めているかは</p>

	わからないんですが、そこが私の中で、先ほど一貫教育と一貫校の話というのは別でというところもあったので、教職員の話になると小中一貫教育がその先生には何かとても負担で嫌だったのかなと思ってしまったので。
C	つくば市の場合にはどっちになるんですか。子どもたちから不満がでたとか。
E	不満が出ました。
C	今はわからないんで、つくば市のは調べていただくことでよろしいですか。
E	もうね、だから途中で辞めちゃったんですよ。事情は違うけれど、つくば市はおいておきます。
土屋課長	つくば市さんも含めて、日高市さんもありますので、こちらでもそういったところはよく話を聞きながらまた情報提供できるようにこちらもしっかり確認をしてまいりたいと思います。
E	このままで一貫教育やりましょうよ。
F	すいません、今回の説明会も午前の会と同様に一言一句起こして公開していただくことができるんですか。
石田課長	はい、基本的に今回の説明会全て、もちろんプライバシーみたいなおところをおっしゃっている部分というところなどは手を入れさせていただきたいと思います。その他の部分はしっかりとそのままの形で公開できるように準備はさせていただいております。
C	町民から出たそのつくば市の例の意見というのは、僕は事例を知らないんで、そちらで預かってそれを今度また資料としていただけるということでよろしいですか。
石田課長	つくば市の事例ですか、そちらに関しまして
土屋課長	そうですね、このままだどっちがどう言っても、つくば市の状況というのがあるので、今つくば市の話になってしまったんですが、このままだともやもやしてしまうというか、あると思いますのでこちらで調べてまた何かの

石田課長	<p>機会に回答できるようなことも考えていきたいと思ひます。今回の議事録だけではないんですが、例えばQ&Aじゃないんですけど、そういったものとか、方法については考えさせていただきたんですが、情報提供できるようにですね、努めてまいりたいと思ひます。</p> <p>それでは長い時間活発な意見をどうもありがとうございました。本日の説明会は以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
------	---